

**製品名: CHSY2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08798**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	85kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CHPF CHPF; CSS2; Chondroitin sulfate synthase 2; Chondroitin glucuronyltransferase 2;
別名	Chondroitin-polymerizing factor; ChPF; Glucuronosyl-N-acetylgalactosaminyl-proteoglycan 4-beta-N-acetylgalactosaminyltransferase II; N-acetylgalactosaminyl-pro
遺伝子 ID	79586.0
SwissProt ID	Q8IZ52
免疫原	抗血清はヒト CHSY2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 631-680

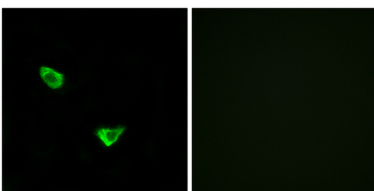
**背景**

触媒活性:UDP-アルファ-D-グルクロン酸 + N-アセチル-ベータ-D-ガラクトサミニル-(1→4)-ベータ-D-グルクロナシル-プロテオグリカン = UDP + ベータ-D-グルクロナシル-(1→3)-N-アセチル-ベータ-D-ガラクトサミニル-(1→4)-ベータ-D-グルクロナシル-プロテオグリカン。触媒活性:UDP-N-アセチル-D-ガラクトサミン + ベータ-D-グルクロナシル-(1→3)-N-アセチル-ベータ-D-ガラクトサミニル-プロテオグリカン = UDP + N-アセチル-ベータ-D-ガラクトサミニル-(1→4)-ベータ-D-グルクロナシル-(1→3)-N-アセチル-ベータ-D-ガラクトサミニル-プロテオグリカン。補因子:二価カチオン。最も高い活性はマンガンで測定されます。コバルトも利用できます。機能:  $\beta$ -1,3-グルクロン酸トランスフェラーゼ活性と  $\beta$ -1,4-N-アセチルガラクトサミントランスフェラーゼ活性の両方を有します。UDP-GlcUA からグルクロン酸 (GlcUA) を、UDP-GalNAc から N-アセチルガラクトサミン (GalNAc) を、伸長中のコンドロイチンポリマーの非還元末端に転移します。オンライン情報: GlycoGene データベース,PTM: DNA 損傷時にリン酸化されます (おそらく ATM または ATR による)。類似性: コンドロイチン N-アセチルガラクトサミントランスフェラーゼファミリーに属します。サブユニット: CHSY1 に結合する。組織特異性: 普遍的。膵臓、卵巣、脳、心臓、骨格筋、結腸、腎臓、肝臓、胃、小腸、胎盤に多く発現しています。触媒活性:UDP- $\alpha$ -D-グルクロン酸 + N-アセチル- $\beta$ -D-ガラクトサミニル-(1→4)- $\beta$ -D-グルクロナシル-プロテオグリカン = UDP +  $\beta$ -D-グルクロナシル-(1→3)-N-アセチル- $\beta$ -D-ガラクトサミニル-(1→4)- $\beta$ -D-グルクロナシル-プロテオグリカン。触媒活性:UDP-N-アセチル-D-ガラクトサミン +  $\beta$ -D-グルクロナシル-(1→3)-N-アセチル- $\beta$ -D-ガラクトサミニル-プロテオグリカン = UDP + N-アセチル- $\beta$ -D-ガラクトサミニル-(1→4)- $\beta$ -D-グルクロナシル-(1→3)-N-アセチル- $\beta$ -D-ガラクトサミニル-プロテオグリカン。補酵素: 二価カチオン。マンガンで最も高い活性が測定される。コバルトも利用できる。機能:  $\beta$ -1,3-グルクロン酸トランスフェラーゼ活性と  $\beta$ -1,4-N-アセチルガラクトサミントランスフェラーゼ活性の両方を有する。UDP-GlcUA からグルクロン酸 (GlcUA) を、UDP-GalNAc から N-アセチルガラクトサミン (GalNAc) を伸長中のコンドロイチンポリマーの非還元末端へ転移する。オンライン情報: GlycoGene データベース,PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。類似性: コンドロイチン N-アセチルガラクトサミン転移酵素ファミリーに属する。サブユニット: CHSY1 に結合する。組織特異性: 普遍的に存在する。膵臓、卵巣、脳、心臓、骨格筋、結腸、腎臓、肝臓、胃、小腸、胎盤で高発現する。、

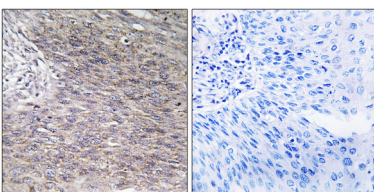
## 研究分野

コンドロイチン硫酸の生合成;

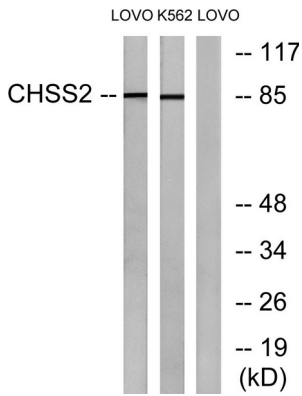
## 画像データ



CHSY2 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CHSY2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト子宮頸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



CHSY2 抗体を用いた LOVO 細胞および K562 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。